

解剖学特別講演会Ⅲ

演題：行動を統御するホルモン作用機構

演者：松田 賢一

京都府立医科大学大学院 解剖学生体構造科学 准教授

日時：2015 年2 月17日（火） 17:00-18 : 00

会場：イノベーション棟 8 階講堂

要旨：

ホルモンを行動表出の key regulator ととらえ、特に性ホルモンの脳への作用について、神経組織形態学的手法を軸に、行動解析、生細胞イメージング、分子生化学的解析といった多角的アプローチにより追求してきた。近年は脳の性差形成の分子機構に着目し研究を遂行してきた。その結果、発達期の性ホルモン作用の差がエピジェネティック修飾の差として遺伝子にプログラムされることが生涯にわたる行動発現の差につながるということが明らかになり、性ホルモン受容体を介したエピジェネティック機構を伴う作用機序が、脳の機能的性差維持機構の本体であることが示された。今後さらに、行動とホルモンの神経-分子相関研究を発展・深化させたい。一方、「産後うつ」や「摂食障害」等、性ホルモンに関連した病態のトランスレーショナルリサーチにも着手している。すでに、これら病態の神経形態学的基盤の解析および神経シグナルの同定を行っており、今後検証を進める予定である。

連絡先：筑波大学医学医療系 野口雅之（内線 3750）